

手足口病に気をつけましょう！

手足口病は、乳幼児を中心に夏に流行する感染症です。香川県では6月から増え始め、25週(6/17～6/23)で流行警報の基準を超えました。しっかりと手洗いをするなど感染防止に努めましょう。

【保健所別定点当り患者数(最近4週の発生状況)】



○手足口病とは？

主にコクサッキーウイルス A6、A16、エンテロウイルス 71 などのウイルスが原因となって引き起こされます。複数のウイルスが原因となるため、何度でもかかってしまいます。「夏風邪」の一種とも言われ、乳幼児のあいだで流行しやすい感染症です。

○感染経路は？

せきやくしゃみなどによる飛沫感染や、患者の便や鼻水などの中にいるウイルスが、手などによって、口や鼻に運ばれることで感染する接触感染でうつります。

○潜伏期間と症状は？

3～5 日間の潜伏期間を経て、手のひら、足の甲又は裏、口の中の粘膜に水泡を伴う発疹が現れます。発熱は約 3 人に 1 人に見られますが、38℃以下の場合が多いとされています。通常は 3～7 日でよくなりますが、まれに、脳炎・髄膜炎などの中枢神経系の合併症を引き起こすおそれがあるので、元気がない・頭痛・吐き気・けいれん・高熱などの症状があったら、できるだけ早くかかりつけの医師に相談してください。治療は、それぞれの症状に対する対症療法が中心です。

予防のポイント

- ☆ 石けんと流水でしっかりと手洗いをして、タオル、コップの共用は避けましょう。
- ☆ 症状がなくなっても 4 週間程度、便の中にウイルスが排出されますので排便後やオムツ交換後の手洗いはしっかりとしましょう。

